

# HuMA News Letter

## ミャンマー・サイクロン被災者のための復興支援報告

～モウラミンジュン郡内における井戸掘削支援事業～

2008年5月にミャンマーを襲ったサイクロンは、旧首都ヤンゴンおよび周辺地域において甚大な被害をもたらしました。HuMAでは診療所再建と井戸8本の掘削による住民の生活基盤再建のため、復興支援活動を2009年2月まで行ってきました。しかしながら被災地域では依然として安全な水を得ることが困難な状況が続いており(写真①)、村の住民から井戸を作って欲しいという多くの要望が寄せられていました。

従って現地NGO・メッタヤインシを通じて、JapanPlatform (JPF) およびHuMAの資金により、モウラミンジュン郡内の8村において第二期井戸掘削支援活動を行うことになりました。第一期と同様、各村ではレンガブロック造のエンジン小屋と貯水槽を付設しました(写真②)。

またモニタリングのため2010年2月から5月末にかけて医師(池内龍太郎)、看護師(林晴実、三谷智子)、調整員(松下朋子)が3回にわけて村を訪問しました。具体的な活動内容としては、①第一期の井戸8本のモニタリング調査、②第二期に設置する8村での住民の聞き取り調査、③掘削した井戸水の水質検査等であり、本事業では安定した水源供給により住民の健康及び生活改善に寄与するだけでなく、継続的に井戸を活用していくための支援を行うことにより、住民の生活がより改善されることを目指しました。



写真① サイクロンの後10村が合併してできたウェイジンヨウ村。政府の作った太陽光発電の井戸があるが、取水量は十分ではなく一日中バケツを持って並ぶ人が途切れない。



写真② 今回設置した井戸。手前が貯水層、奥がエンジン小屋。



写真③ 井戸付帯設備建設中の様子(左からエンジン小屋、中央の青いパイプが深井戸、右に貯水槽)



写真④ KCCP村にて、HuMAの寄付で建設された診療所とミッドワイフのための宿泊施設(右)と貯水槽およびエンジン小屋(左)

### ■第1回派遣:2010.2.10～2010.2.18 / 林晴実看護師・松下朋子調整員

第一回目の訪問では現地NGOと共に第一期の2村と第二期の8村の合計10村を訪問しました。支援地域はデルタ地帯なので、小型ボートを利用しました。1年後に訪れた2村は非常に対照的でした。第一期にHuMAが診療所を再建した(写真④)チョエチャンチャオピャ村(KCCP村)は、向上心が高く団結力のある村で、村の住民は井戸の管理や燃料費集めに大変協力的でした。一方のユザナ村では、高潮による被害が大きかったため、復興には時間がかかり、井戸の燃料費の捻出にも住民が苦心していました。

第二期であらたに井戸を設置する8村においては、被災状況、復興状況、そして水取得の現状について聞き取り調査を実施しました。復興状況ではサイクロン以前のレベルまで再建されている村はほとんどなく、また水取得の現状についても、頼りの溜め池が高潮で汚染または破壊されたままで使えない状態で、使えても量が十分でなく、乾季には涸れてしまうなど安定的に水が得られる環境ではない状況にありました。

## ■第2回派遣:2010.4.5~2010.4.14 / 三谷智子看護師・松下朋子調整員

現地NGOの尽力により、当初の予定よりも早く井戸掘削作業が進み今回の訪問では、8村中6村で井戸完成セレモニーに参加することができ、掘削中の村を含め計12村を訪問しました。

完成セレモニーでは現地NGO代表が井戸維持管理委員会のメンバーを発表し、井戸を長く使い続ける為に村の住民一人ひとりの協力が必要であることを説明しました。井戸維持管理委員会とは住民から選ばれた5名から成り、井戸の管理、燃料費の収集・保管、エンジンのメンテナンスなどを責任持って行う委員会です。

水質に関しては、化学的検査(鉄、PHなど13項目)、物理的検査(透視度計による濁度のチェック)、微生物検査(大腸菌・一般細菌)、そして塩分濃度について検査をしました。雨季には雨水が使えるので井戸の利用頻度は低いようですが、水質が非常に良好な村では一年中井戸水を使っていることが判りました。



写真⑤ アウトウカ村のセレモニーに集まった村人たち



写真⑥ 健康的なKCCP村の住民たち



写真⑦ イラワジ河の夕日

## ■第3回派遣:2010.5.18~2010.5.29/池内龍太郎医師・松下朋子調整員

最後の訪問では、聞き取り調査と水質検査に加え、セルフチェックリスト(水質が使い始めた頃と変わらないことを確認するもの)で、井戸水になんらかの異常や貯水槽の汚染などがないか、村の住民が自己管理出来るように指導を行いました。

貯水池、河水など井戸水以外の水質検査の結果、当初予想していたほど汚染されておらず、雨季・乾季、また月の満ち欠けによっては河水も飲料水として有効であるということが判りました。またデルタ地域では人間が住み始めてから30年程度の新しい村が多く、今回のような大災害に対しては全く予備知識がなかったということでした。

### <派遣された林看護師の回想>

今回、デルタに住む村人たちの生活事情を見て、また生の声を聞き、村にひとつ井戸を持つということがどれだけ彼らの生活を改善するかがよく理解できました。飲み水の改善だけでなく水の確保のために費やしていた肉体的・精神的・時間的な苦勞からの解放が、ひいては人々の健康や衛生の向上につながるはずで。

昨今マスコミから流れてくるミャンマー情報は政治的に緊張したニュースが多く、日本からの観光客も激減し遠い国となりつつあります。しかし、実際のミャンマーは輝いていました。一番強い印象は、折りと瞑想の国ミャンマーの素晴らしさでした。まるで鎖国のような状態にありグローバル化に完全に取り残された国でありながら、人々は総じて心が清らかで、徳が深く、誠実で正直で温かく、物の充実と人心の充実はもしや反比例していくのではと思ったほどです。ミャンマーにて、劣悪な環境のなかで心豊かに生きている人々を見て、人間らしい生き方とは何か、真の幸せとは何なのかを考えさせられた次第です。

このような思索の機会を与えてくれたミャンマーの方々、HuMA、そして本活動を支えて下さったドナーの方々にお礼を申し上げたいと思います。

## ◎会員募集・寄付金のお願い

HuMAでは本会の活動方針にご賛同いただける会員・賛助会員及び活動資金の寄付金を随時募集しております。資料請求のお問い合わせ、銀行振込の場合で領収証をご希望の場合、また寄付者の掲載について匿名をご希望の方は下記事務局までご連絡を頂けますようお願い致します。

寄付金受付先

[銀行]

みずほ銀行 根津支店 普通預金口座 8010278

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 理事長 鶴飼 卓

[郵便局]

口座No. 00190-6-569149

口座名: 特定非営利活動法人 災害人道医療支援会

◇ただいまの会員数 435名

正会員94名・登録会員226名・賛助会員115名

(2010年6月末現在)

発行 = 特定非営利活動法人 災害人道医療支援会

連絡先 = サポート事務局 〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 1-24-1 シャコーポ 308

TEL/FAX : 03-3413-7510 • e-mail: tso@huma.or.jp • website: http://www.huma.or.jp